

令和4年度 宮の原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
目指す子ども像 「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人が自分のよさや可能性を伸ばせる学校、教職員が働きがいを実感できる学校、家庭や地域との連携・協働による地域とともにある学校づくりを目指す。

「学びのある学校」 豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学校

「活気ある学校」 心身ともに健康で、のびやかな子どもを育む学校

「笑顔いっぱい学校」 友達と活動し、ともに生きる喜びを感じる学校

「地域とともにある学校」 家庭、地域と協働して子どもを育む、地域に開かれた学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を実践し、カリキュラムマネジメントにより学習効果の向上を図るとともに、本年度の重点目標について学校・保護者・地域が共有しながら特色ある教育活動「宮小けやきプラン2022」を推進する。
- (2) 全ての教職員が学校経営の理念に基づき目標を共有化し、自己研鑽に努めながら児童一人一人を大切にされた教育活動を実践する。また、教職員が生き生きと健康で働きがいを実感できるよう、働き方改革の視点に立ち、リフレッシュウィーク等の勤務時間を意識した働き方の推進や業務の適正化を目指す。
- (3) 地域協議会と連携しながら、地域教育力の積極的な活用と人材発掘、地域行事との連携、積極的な情報発信と学校公開等を通して家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図り、地域とともにある学校づくりに努める。一条地域学校園（小中4校）の連携強化により、積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。
- (4) ○小中一貫教育の推進 小中4校の連携強化（積極的な情報共有）と児童生徒の実態に即した取組の推進

〔一条地域学校園教育ビジョン〕基本をしっかりと身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法及び同施行規則、新小学校学習指導要領の示すところに従うとともに、「栃木県教育振興基本計画2025」及び「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨に基づきながら、本校児童の実態を踏まえ、教育目標の具現化が図られるよう調和と統一のある教育課程を編成する。
- (2) 本年度の経営方針、努力点や具体策、前年度活動の評価等を踏まえ、地域社会の実情・児童の心身の発達段階や特性・子どもの育成にかかわる多くの関係者の願いを考慮し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した特色ある教育活動「宮小けやきプラン2022」を推進する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

・「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」を目指す子ども像として、全教職員が協働し活気ある学校づくりに努め「宮小けやきプラン2022」を推進

○「小中一貫教育と地域学校園」の取り組みの推進

【学習指導】

・自分の思いや考えをもち、進んで伝え合い、学び合う児童の育成

【児童生徒指導】

・人とのかかわりを通して、きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成

【健康（耐力・保健・食・安全）】

・自らの健康と安全に関心をもち、進んで体力づくりに励む児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	表中数字：上段 R3年度 下段 R4年度													
				太数字：前年度比 ±5ポイント													
目指す児童の姿	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を向上させるために、魅力のある学習課題の設定及び提示の仕方を工夫する。 個人の考えを深められる場面や進んで伝え合える場面の設定を意識したり、個人用パソコンを活用したりして、学び合いがより深まる取組をしていく。 安心して発表できる、認め合い、励まし合う教室環境作りに努める。 	B	<p>【達成状況】A1 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.9</td> <td>100</td> <td>91.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>98.2</td> <td>100</td> <td>91.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 学びに向かう姿勢や環境が整い、進んで学習に取り組んでいる児童がさらに増えた。 個人の考えを深められる場面や進んで伝え合える場面の設定を意識したり、個人用パソコンを活用したりして、学び合いがより深まる取組をしてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場に応じた話し方や聞き方について、学年に応じた指導を具体的に行っていく。 		児童	教職員	保護者	地域	94.9	100	91.9		98.2	100	91.5	
	児童	教職員	保護者	地域													
94.9	100	91.9															
98.2	100	91.5															
<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間を核として、思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を増やす。 日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりしていく。 なかよし班活動や縦割り班清掃を推進していくことで、思いやりの心をもって協力し合う活動の充実を図っていく。 教師自身がモデルであることを意識し、児童に温かい心で接する。 	B	<p>【達成状況】A2 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>100</td> <td>96.1</td> <td>85.7</td> </tr> <tr> <td>95.7</td> <td>100</td> <td>96.6</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 異学年での活動やボランティア活動を実施することができ、思いやりの心をもって協力し合う活動の充実が図れた。 道徳の授業や日常生活の中で、思いやりの心をもつことの大切さを伝えてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよい人間関係を育てていけるよう、日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりする場面を増やしていく。 		児童	教職員	保護者	地域	92.2	100	96.1	85.7	95.7	100	96.6	100	
児童	教職員	保護者	地域														
92.2	100	96.1	85.7														
95.7	100	96.6	100														

<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、望ましい行動習慣の形成に努める。 生活目標について全職員で共通理解しながら、継続的に指導する。児童が個人用パソコンを使って、自分の生活を振り返る機会を設ける。 生活目標について、児童会を中心にきまりやマナーについて呼びかける期間を設ける。 	<p>【達成状況】A3 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.2</td> <td>91.3</td> <td>96.2</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>93.9</td> <td>100</td> <td>92.3</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を全職員で共通理解を図り、望ましい行動習慣についての呼びかけを行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、共通理解を図りながら指導の充実を図っていく。 児童会が中心となって、発信を行ってさらに児童の意識の向上を図っていく。 「生活目標」について、児童が目標を守って生活しようとする意識が高まるように、環境を整え、振り返りの機会を設ける。 	児童	教職員	保護者	地域	90.2	91.3	96.2	100	93.9	100	92.3	100
児童	教職員	保護者	地域											
90.2	91.3	96.2	100											
93.9	100	92.3	100											
<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域と連携した「みやのはらあいさつ運動」を継続し、あいさつの定着を図る。(「みやのはらあいさつの日」毎月1日) 教職員が率先してあいさつをする。 道徳や特別活動を中心に、発達段階に応じて、時間や相手に応じたあいさつを具体的に指導する。 児童が主体的に参加できる「あいさつ運動」を実施し、意識を高めるようにする。 	<p>【達成状況】A4 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.9</td> <td>100</td> <td>90.2</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>97.8</td> <td>95.5</td> <td>87.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 時と場に応じたあいさつを具体的にしたり、児童会によるあいさつ運動を展開したりしてあいさつの定着を図ってきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域と連携しながら、あいさつ運動の実施を継続し「みやのはらあいさつの日」の周知を図っていく。 教職員も率先してあいさつをしながら、更に意識づけを図っていく。 	児童	教職員	保護者	地域	94.9	100	90.2	100	97.8	95.5	87.4	100
児童	教職員	保護者	地域											
94.9	100	90.2	100											
97.8	95.5	87.4	100											
<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習や活動において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって粘り強く取り組むことができるようにする。 キャリアファイル等を活用し、自分のよさを伸ばしたり、苦手を克服するために自分なりの目標を設定したりして、努力できるように学校と家庭の両面から児童を励ましていく。 学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら取り組むことができるようにする。 受容的な態度や温かいコメントを心掛ける。 	<p>【達成状況】A5 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.2</td> <td>100</td> <td>82.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>93.2</td> <td>100</td> <td>79.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、ゴールを意識させることで、達成感を積み重ねてきた。 共に高め合い、励まし合える活動を工夫してきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> なりたい自分を意識させることで、自分の良さを伸ばしたり、粘り強く努力できたりするように、学校と家庭の両面から児童を励ましていく。 定期的に目標を確認したり、振り返ったりする機会を設けるなど、継続して努力できるように励ましていく。 	児童	教職員	保護者	地域	89.2	100	82.3		93.2	100	79.1	
児童	教職員	保護者	地域											
89.2	100	82.3												
93.2	100	79.1												

<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護教諭や学校栄養職員が保健指導や食育指導に積極的に関わったり、「食育だより」や「保健だより」を発行したりして、児童や保護者に健康についての意識付けを図る。 ・ 児童委員会を中心にした活動を行ったり、生活目標に設定したりして健康や安全について身近に考える機会を増やす。 ・ 月1回の登校指導や、月1回の下校指導、また、定期的な班長による振り返りを行い、継続的に安全な登下校の指導を行う。 ・ 地震・火災、不審者対応、竜巻等あらゆる災害を想定した避難訓練を行い、安全な生活の意識付けを図る。 	<p>【達成状況】A6 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.6</td> <td>100</td> <td>96.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>96.0</td> <td>100</td> <td>92.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会活動を工夫したり、養護教諭や学校栄養職員による保健指導や食育指導をしたりすることにより、健康について身近に考える機会を増やすことができた。 ・ 交通安全教室や災害時に自分の身を守る方法の訓練を実施し、児童への意識付けを図ってきた。 ・ 年間の計画にしたがい、健康や安全についての指導を行ってきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康な生活や安全な生活について、引き続き意識付けを図っていく。 	児童	教職員	保護者	地域	96.6	100	96.1	100	96.0	100	92.4	100
児童	教職員	保護者	地域											
96.6	100	96.1	100											
96.0	100	92.4	100											
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会活動、縦割り班活動、清掃活動、学級での当番や係活動、ボランティア活動などを通して、働くことの喜びや役割を果たす大切さを味わわせる。 ・ キャリアファイルを活用し、自分の目標を設定したり、努力を振り返ったりすることができるようにする。 ・ 様々な分野で活躍している人の生き方に目を向けさせ考える機会を増やす。 	<p>【達成状況】A7 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.2</td> <td>100</td> <td>82.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>93.2</td> <td>100</td> <td>79.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や国語、社会科等の教材、日常の話題などから、様々な分野で活躍している人の生き方に目を向けさせ考える機会を増やすようにした。 ・ 委員会活動、縦割り班活動、清掃活動、学級での当番や係活動、ボランティア活動などを通して、働くことの喜びや役割を果たす大切さに気付かせることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割に責任感をもち、ボランティア活動にも目を向けられるように声かけや指導を心掛けていく。 	児童	教職員	保護者	地域	89.2	100	82.3		93.2	100	79.1	
児童	教職員	保護者	地域											
89.2	100	82.3												
93.2	100	79.1												

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。
 【数値指標】全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」
 ⇒児童の肯定的回答
 85%以上

- ・児童の肯定的回答率の向上を目指す。
- ・コミュニケーションツールの一つとして、個人用パソコンを利用して、自分の考えを表現できるようにする。
- ・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへと繋げていく授業づくりをする。

【達成状況】A8 (○)

児童	教職員	保護者	地域
90.2	100		
92.8	90.9		

- ・高学年は個人用パソコンを利用して、自分の考えを表現する活動を取り入れてきた。
- ・下学年はALTとのやり取りを真似して積極的に英語に親しんだ。

【次年度の方針】

- ・コミュニケーションツールの一つとして、各学年に応じて個人用パソコンを利用して、自分の考えを表現できるようにする。
 - ・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへと繋げていく授業づくりをする。
- 授業以外の場面でも積極的に英語に触れる機会を設けるようにする。

B

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。
 【数値指標】全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」
 ⇒児童の肯定的回答
 85%以上

- ・生活科・社会科・総合的な学習における校外学習、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。
- ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際や給食の宮っ子ランチのときには、宇都宮の良さを知らせるようにする。
- ・宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然や交通、伝統文化に目を向けさせるようにする。

【達成状況】A9 (○)

児童	教職員	保護者	地域
89.2	82.6	69.2	
91.7	95.5	73.2	

- ・社会科の学習や総合的な学習の時間の宇都宮学を通して、宇都宮に興味をもち、良さを実感できるような体験学習や調べ学習を取り入れてきた。また、お知らせを配布する際や宮っ子ランチの際にも、宇都宮の良さを口頭や紙面で伝えた。

【次年度の方針】

- ・生活科・社会科・総合的な学習における校外学習等、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。
- ・給食の宮っ子ランチや宇都宮市のイベント・行事などのお知らせを配付する機会を活用して、宇都宮の特色を知らせるようにする。
- ・宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然や交通、伝統文化に目を向けさせるようにする。

B

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。

【数値指標】全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」

⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・児童が個人用パソコンや図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め、児童が機器や図書に触れる機会を多く設定する。
- ・個人用パソコンを活用し、教職員がICT機器等を授業の中で効果的に使用できる場を研究し、学習効果を高めていく。
- ・総合的な学習の時間などの調べ学習では、個人用パソコンと図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援していく。

B

【達成状況】A10 (○)

児童	教職員	保護者	地域
93.6	100	81.4	
96.0	100	89.1	

- ・ ICT機器や図書資料を効果的に使える授業計画をし、積極的に学校図書館司書業務嘱託員やICT支援員の授業への参画を図った。
- ・ 個人用パソコンを効果的に活用できる機会を研究し、実際に授業で使用させていくことで、学習効果を高められるよう工夫した。

【次年度の方針】

- ・ 児童が個人用パソコンや図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め、児童が機器や図書に触れる機会を多く設定する。
- ・ 個人用パソコンを適切に活用し、ICT機器等を授業の中で効果的に使用できる場を継続して研究し、学習効果を更に高めていく。
- ・ 国語や総合的な学習の時間などの調べ学習では、個人用パソコンと図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援していく。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。

【数値指標】全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」

⇒地域住民の肯定的回答
90%以上

- ・ 高齢者に対する感謝の気持ちをもてるよう、低学年の生活科での昔遊びや中学年での総合的な学習の時間の福祉体験、高学年の家庭科での手縫い等、地域の方々から教えていただく機会をできるだけ授業の中に設定する。
- ・ 道徳の授業を通し、高齢者に対する思いやりの心をはぐくむ指導をしていく。

B

【達成状況】A11 (◎)

児童	教職員	保護者	地域
92.2	100	96.1	85.7
95.7	100	96.6	100

- ・ 低学年の生活科や中学年の総合的な学習の時間を通して、地域の高齢者と触れ合う機会を設定した。
- ・ 福祉や高齢者を取り上げた題材の道徳の授業を通して、高齢者に対する思いやりの心を育む指導をした。
- ・ お世話になった地域の方々に、全校児童でお手紙を書いて、感謝の気持ちを伝えた。

【次年度の方針】

- ・ 高齢者に対する感謝の気持ちをもてるよう、低学年の生活科での高齢者とのふれあい会や昔遊び、中学年の総合的な学習の時間での福祉体験や安全マップ、高学年の家庭科での手縫い等で、教えていただく機会を授業の中にできるだけ設定する。
- ・ 道徳の授業を通し、高齢者に対する思いやりの心を育む指導をしていく。

<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員会による、電力・水道水の節約の呼びかけや古紙回収活動を通して、身近にできるエコ活動を推進する。 栽培委員会の花壇の植え替え、児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで、環境保全の意識を高めていく。 各教科の授業で環境や防災を意識した指導をしていく。 	<p>【達成状況】A12 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 145 1503 264"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.8</td> <td>78.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>93.2</td> <td>86.4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童会の落ち葉集めや環境美化委員会の古紙回収・ペットボトルキャップ回収を通して、身近にできるエコ活動を行ってきた。 生活科、理科、道徳の授業や栽培員委員会の活動等で、動植物を大切にす意識向上に努めた。 学級では、ごみを可燃・プラスチック・リサイクルに分別し、ごみの量を減らす取り組みを行ってきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級でごみを減らすための取り組みを児童に伝え、実践していく。 環境美化委員会による、電力・水道水の節約の呼びかけや古紙回収、ボランティア委員会のペットボトルキャップ回収、栽培委員会の花壇の花の植え替え、児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで、環境保全の意識を高めていく。 各教科の授業の中で環境や防災を意識した指導をしていく。 	児童	教職員	保護者	地域	90.8	78.3			93.2	86.4		
児童	教職員	保護者	地域											
90.8	78.3													
93.2	86.4													
<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）や外国人児童（生徒）等の実態に応じて、適切な支援をしている。」</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内での実態調査や校内支援委員会で把握した児童のもつ課題について情報を共有するとともに、個別の支援を行う。児童の実態に応じてかがやきルームや特別支援学級の利用も検討する。 読み書き計算については、朝の学習タイムや習熟度別学習及びチームティーチングなどを活用し、つまずきに対応する。 	<p>【達成状況】A13 (◎)</p> <table border="1" data-bbox="1034 1160 1503 1279"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 校内での実態調査や校内支援委員会で上がってきた児童に対して、情報を共有し、家庭との連携を図り、支援の必要な児童に寄り添った個別の支援を行った。必要に応じて、かがやきルームや特別支援学級の利用活用も検討した。 学習支援については、朝の学習タイムや習熟度別学習及びチームティーチングなどを活用し、基礎基本の定着を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も校内での支援体制を整え、児童の実態に応じて特別支援学級への編入や、かがやきルームの利用などを検討していく。また、必要に応じて関係機関との連携を図る。 学習支援に関しては、朝の学習時間の活用や、習熟度別学習及びチームティーチングを行い、手厚い支援をしていく。 	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域											
	100													
	100													

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心にしどうしてくれる。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

・ いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共に、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、いじめゼロ運動等の様々な機会を生かして、継続的な指導を行う。

・ GIGAスクールの推進に伴い、インターネットのモラルやマナーを学ぶ機会を設け、ネット上でのいじめ問題にも触れるようにする。

B

【達成状況】A14 (○)

児童	教職員	保護者	地域
97.3	100	93.0	100
99.3	100	85.4	100

- ・ いじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活を送れるように、常に指導にあたった。
- ・ いじめゼロ運動の標語を家庭で児童と一緒に考えてもらうことで、保護者にもいじめ防止に対する意識付けを図った。
- ・ インターネットのモラルやマナーを学ぶ機会を設け、ネット上でのいじめ問題にも触れる機会を設けた。

【次年度の方針】

- ・ いじめに関するアンケートや教育相談の活用を継続し、いじめに関わる事実の把握に努める。また、いじめゼロ運動などの機会を生かして、いじめは許されない行為であることを継続して指導していく。
- ・ 個人用パソコンの導入により、ネット上のいじめが全国的に課題になっているので、情報モラルにも力を入れていきたい。
- ・ 保護者の肯定的割合が低下しているので、HP等で取り組みについて積極的に情報を発信する。

【達成状況】A15 (○)

児童	教職員	保護者	地域
96.9	100	95.9	
98.9	100	94.2	

- ・ 日常生活や学習場面の中で、自己有用感を感じられるような活動を意識した。
- ・ 学級に居がい感があり、安心して学校生活を送れるように、多様な意見やお互いを認め合う機会を設けた。
- ・ 温かな言葉かけを意識したり教育相談を活用したりした。
- ・ 行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりした。

【次年度の方針】

- ・ 教師が中心となり、児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。
- ・ 行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりする。
- ・ 保護者の肯定的割合が低下しているので、HP等で取り組みについて積極的に情報を発信したり、連絡帳等で認め励ますコメントを発信したりする。

B

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

・ 授業での発表や、日常生活、当番活動や係活動を通して自己有用感を感じられるように配慮する。

・ 学級の中に居場所を感じられるように、多様な意見やお互いを認め合う機会を設けたり、温かな言葉かけを意識したりする。

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）や外国人児童（生徒）等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにする。 道徳や外国語活動を通して、外国の文化を認める国際理解や外国人に対する差別などが無いように人権教育を指導していく。 	<p>【達成状況】A16 (◎)</p> <table border="1" data-bbox="1034 152 1501 275"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにした。 道徳や外国語活動を通して、外国の文化を認める国際理解や外国人に対する差別などが無いように人権教育を指導していく。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにする。また、外国語活動や道徳の時間を活用し、外国の文化を認める国際理解を進めるとともに、外国人に対する差別などが無いように人権教育を推進していく。 	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域											
	100													
	100													
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> なかよしタイム等の縦割り班活動の充実。児童会主体のあいさつ運動、特別活動や学校行事を通して、主体的に「人とかかわる力」を育てる。 	<p>【達成状況】A17 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 967 1501 1090"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.9</td> <td>100</td> <td>98.0</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>96.8</td> <td>100</td> <td>94.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動（なかよしタイム）やあいさつ運動、いじめゼロ運動などを通じ、異学年交流により「人とかかわる力」を伸ばす児童が多く見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会活動や特別活動、学校行事を通して明るい雰囲気づくりに努める。 縦割り班活動を通して、互いに認め合える雰囲気を作る。 保護者の肯定的割合が低下しているので、HP等で取り組みについて積極的に情報を発信する。 	児童	教職員	保護者	地域	93.9	100	98.0	100	96.8	100	94.5	100
児童	教職員	保護者	地域											
93.9	100	98.0	100											
96.8	100	94.5	100											
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「先生方は、勉強を分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に即した内容の指導の工夫を行う。 全校体制で、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、児童一人一人が分かる授業を目指す。 授業の中で、ペア学習やグループ学習、話し合い、ホワイトボード、タブレット端末などを活用し、児童の主体的・対話的な活動を効果的に取り入れる。 校内研修サポート事業を活用し、個々の授業改善や子どもの見方について教師自らが学び、授業力の向上を図る。 	<p>【達成状況】A18 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 1527 1501 1650"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.9</td> <td>100</td> <td>92.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>99.3</td> <td>100</td> <td>91.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 少人数活動や個人用パソコンを活用したことにより、児童の主体的・対話的な活動につながり、肯定的回答が増えた。 授業研究会を実施し、授業改善に向けて教師の意識を高めることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続してICTの活用や授業研究会を行うことで、個々の授業改善や子どもの見方について、教師自らが学び、授業力向上を図る。 	児童	教職員	保護者	地域	96.9	100	92.0		99.3	100	91.5	
児童	教職員	保護者	地域											
96.9	100	92.0												
99.3	100	91.5												

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを促進し、若手教員の育成を図る。 個々の役割と責任を明確にした上で、同僚に対する気配りをしながら、相互に協力して業務を行う。 学級経営や校務分掌などで、心配や困ったことがある時には、周囲に相談したり、心配や困りごとを抱えている同僚には、周囲から声をかけたりし、皆で早期に改善を図る。 	<p>【達成状況】A19 (◎)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 個々の役割を相互協力しながら行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続して、校務分掌や学習指導、児童指導等において、相互に協力し、早期に解決を図るようにする。 継続してOJTを促進し、若手教員の育成を図る。 	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域											
	100													
	100													
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電子掲示板を活用した事務連絡、会議資料のデジタル化等、業務の見直しを図り、全体の効率化を目指す。 打合せや会議の内容を精選し、回数を削減する。 教職員自身が出退勤管理を適正に行うとともに、月1回のリフレッシュウィークを各自が有効活用し、定時退勤への意識を更に高めていく。 	<p>【達成状況】A20 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>82.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>86.4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 教育情報システムの掲示板を有効活用し、打合せの回数や時間を減らすことで業務の効率化を図ることができた。 退勤時刻について、全職員で共通理解を図ることで、超過勤務時間の減少に繋げることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> リフレッシュウィークを各自が有効活用し、職員同士で早く帰りやすい雰囲気を作るよう定時退勤への意識を更に高めていく。 打合せや会議の内容を精選し、回数・時間を削減する。 臨時の打合せ等を実施する際は、話し合う内容について各自が焦点化し効率よく進められるように工夫する。 	児童	教職員	保護者	地域		82.6				86.4		
児童	教職員	保護者	地域											
	82.6													
	86.4													
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校園と連携した「小中一貫の日あいさつ運動」を継続して行い、さらに年2回小中合同実施を推進する。 クリーンアップキャンペーンに、地域住民や保護者が来校し、小学生とともに校庭清掃を実施する。 学習や体力の向上、図書館教育、食育など様々な領域において学校園で取り組んでいることを児童に還元し、周知に努める 	<p>【達成状況】A21児童 (○) 教職員 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>76.5</td> <td>100</td> <td>87.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>96.7</td> <td>95.5</td> <td>89.1</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 感染の状況により、工夫しながら活動を行った。 地域学校園の取り組みを各種便り等で、児童・保護者に周知した結果、達成状況の向上につながった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染の状況を鑑みながら、地域学校園で連携して活動を実施していく。 	児童	教職員	保護者	地域	76.5	100	87.8	100	96.7	95.5	89.1	100
児童	教職員	保護者	地域											
76.5	100	87.8	100											
96.7	95.5	89.1	100											

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ運動やクリーンアップキャンペーン、地区文化祭、防災訓練等、地域と相互に協力しながら教育活動を行う。 ・ 地域協議会やPTA理事会等でそれぞれの意見を吸い上げ、児童の指導や教育活動の向上に活かす。 ・ 学習内容に応じて、地域人材や企業等を活用した授業を展開する。 	<p>【達成状況】A22 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>95.7</td> <td>96.4</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>94.6</td> <td>100</td> <td>92.5</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面やオンラインなど、実施方法を工夫することにより、地域や企業の方々が参画する学習活動を実施した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施方法を工夫して、今後も学校ボランティアや企業の方々を講師とした授業、地域の方々と一緒に活動する機会を設ける。 	児童	教職員	保護者	地域	92.2	95.7	96.4	100	94.6	100	92.5	83.3
児童	教職員	保護者	地域											
92.2	95.7	96.4	100											
94.6	100	92.5	83.3											
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コーディネーターを活用して、教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり、学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・ 街の先生・地域の人材の参画を得た授業や、企業の出前講座等を積極的に行い、地域の教育力をさらに学校に取り入れていく。 <p>※ 上記の点は、感染状況により、変更の可能性あり</p>	<p>【達成状況】A23 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>95.7</td> <td>96.4</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>94.6</td> <td>100</td> <td>92.5</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年だよりや学校だより、HPを活用し、企業等と連携した授業について発信した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して、地域の人材の参画を得た授業や企業の出前講座等を積極的に行い、便りやHPで発信していく。 	児童	教職員	保護者	地域	92.2	95.7	96.4	100	94.6	100	92.5	83.3
児童	教職員	保護者	地域											
92.2	95.7	96.4	100											
94.6	100	92.5	83.3											
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員による校内施設等の定期的な安全点検を行い、結果の共通理解を図るとともに、不備な点は早急に対処する。 ・ 校内や学校周辺で危険が予想されるときには、メールやホームページ、学校だより等により周知を図るとともに、学校の取組を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】A24 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>95.9</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>95.3</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度安全点検を実施し、全職員で学校敷地内の点検場所を分担して、施設設備等の点検を計画的・組織的に行い、施設設備等に不備がある場合は、学校業務や機動班、市教委等に依頼し早急に対処した。 ・ 緊急性の有無や連絡の内容により、さくら連絡網を有効活用し、保護者や学校関係者に周知するとともに協力を要請した。 ・ 登下校時、危険が予想される箇所について周知し、地域と連携を図り安全に配慮した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に丁寧な安全点検を実施し、不備の早期発見と早急な対処を行う。 ・ 感染症対策等、児童の健康や安全に関する情報を適宜ホームページやさくら連絡網等で発信していく。 	児童	教職員	保護者	地域		100	95.9	100		100	95.3	100
児童	教職員	保護者	地域											
	100	95.9	100											
	100	95.3	100											

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を学習内容に応じて活用しやすいように整備する。 児童や教師のニーズ、学習内容や発達段階に応じた図書を整備していく。 タブレット端末の授業内での活用を図り、日常的に使用できるようにする。 	<p>【達成状況】A25 (◎)</p> <table border="1" data-bbox="1034 147 1501 264"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.6</td> <td>100</td> <td>81.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>96.0</td> <td>100</td> <td>89.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を学習内容に応じて、積極的に活用して授業を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続して、ICT機器を学習内容に応じて活用するとともに、児童や教師のニーズに応じた図書資料の充実を図る。 	児童	教職員	保護者	地域	93.6	100	81.3		96.0	100	89.1	
児童	教職員	保護者	地域												
93.6	100	81.3													
96.0	100	89.1													
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B1「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校経営の充実を図る。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映している。」 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の現状や課題となっていることを地域協議会の場で説明し、そこでの意見を反映するとともに、課題を共有して課題解決にあたる。 感染症対策を考慮した交流活動となるように検討しながら、地域人材を効果的に活用した体験活動を実施し、学校教育の充実に努める。 	<p>【達成状況】B1 (◎)</p> <table border="1" data-bbox="1034 535 1501 651"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>91.3</td> <td></td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域協議会において、学校経営方針や課題を説明し、地域と学校が連携・協力した活動を実施することができた。コロナ禍においてもできる教育活動について検討し、少しずつ取り組むことができた。 あいさつ運動や登下校指導、地区内の環境点検等で、地域の方々の積極的な協力を得ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で、実施できなかった地域人材の活用を推進し、学習支援や地域との交流など効果的な体験活動を積極的に実施する。 協議会と連携を図り、学校教育が一層充実するよう努める。 	児童	教職員	保護者	地域		91.3		100		100		100
児童	教職員	保護者	地域												
	91.3		100												
	100		100												

B2 児童は、学校生活の中で、みんなのために、進んで活動したり働いたりしている。

【数値指標】学校独自質問の「わたしは、お手伝いや係の仕事、ボランティア活動などをしている」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

- ・ボランティア活動について、児童会が主体となって呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学校ホームページ、児童会だよりなどの様々なツールで紹介したりして、意欲を高めたり、充実感を味わわせたりする。
- ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを教える。
- ・係活動や当番活動、縦割り班活動を通して、働くことの意義を学び、達成感や喜びを味わわせる。

【達成状況】B2 (○)

児童	教職員	保護者	地域
90.5	100	94.0	100
94.6	100	91.2	100

- ・落ち葉掃きや募金活動等のボランティア活動について、児童会が主体となって呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや児童会だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていった。

- ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを理解できるようにした。

- ・係活動や当番活動を各クラスで工夫し、働くことの意義を学び、喜びを味わわせられるように努めた。

【次年度の方針】

- ・ボランティア活動について、児童会が主体となって呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学校ホームページ、児童会だより、学年だよりなどの様々なツールで紹介したりして、意欲を高めたり、充実感を味わわせたりする。

- ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを考えさせる。

- ・係活動や当番活動を通して、働くことの意義を学び、達成感や喜びを味わわせる。

B

B3 家庭学習の習慣が身に付いている。

【数値指標】学校独自質問の「わたしは、決められた宿題に取り組んだり、工夫して自主学習に取り組んだりしている。」

⇒児童の肯定的回答

85%以上

- ・家庭学習カレンダー&振り返りカードを活用して宿題や音読、自主学習に継続的に取り組めるようにする。
- ・学年ごとに、発達段階に応じた自主学習の内容と方法を具体的に示し指導する。
- ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。
- ・「家庭学習強化週間」を実施し、期間中の家庭学習カードに、児童が目標を設定して取組について振り返ったり、保護者のコメントをもらったりする欄を設け、取組の徹底・充実を図る。

【達成状況】B3 (○)

児童	教職員	保護者	地域
85.4	100	77.1	100
89.6	100	78.7	100

- ・児童の家庭学習の取り組みについて、認め励ましたり、アドバイスをしたりして意欲を高めてきた。

- ・「家庭学習強化週間」を実施し、家庭も巻き込んだ取り組みを行い、充実を図った。

【次年度の方針】

- ・学習環境や学習内容の工夫・充実について児童や保護者に助言・提案をしていく。

B

<p>B4 児童は、本をよく読んでいます。</p> <p>【数値指標】学校独自質問の「わたしは、本を読んでいる」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。 けやき読書週間中は、朝の学習を読書、また、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して読書に取り組む。 学校ホームページに読書活動の様子をアップし、保護者や地域の方に取組が伝わるように発信していく。 個人用パソコンでの新刊紹介など、パソコンの活用が読書活動に結びつくような取り組みを行う。 	<p>【達成状況】B4（○）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.6</td> <td>100</td> <td>62.8</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>81.3</td> <td>100</td> <td>57.9</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 多読者を表彰する、借りた本の数が一定数に達した児童にプレゼントをする等して、読書意欲を高める工夫をした結果、昨年度よりも貸出冊数が増加した。 家読、ブックレター等の取り組みを通して、保護者にも協力を得、家庭読書の充実を図ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。 けやき読書週間中は、朝の学習を読書の時間とし、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して読書に取り組むようにする。 学校ホームページに読書活動の様子をアップし、保護者や地域の方に取組が伝わるように発信していく。 タブレットでの新刊紹介、授業関連図書の紹介など、タブレット利用が読書活動に結びつくような取り組みを行う。 	児童	教職員	保護者	地域	77.6	100	62.8	80.0	81.3	100	57.9	100
児童	教職員	保護者	地域											
77.6	100	62.8	80.0											
81.3	100	57.9	100											

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 今年度、宇都宮市共通の質問25問と、学校独自の質問4問でアンケートを実施した。「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上増加」の項目を取組の成果が認められたものとした。一方、「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上減少、または、肯定的回答割合が80%未満」の項目を取組の成果が十分ではなかったものとした。
 - 学校での種々の活動が少しずつコロナ禍前の状況にもどりつつある中で、なかよし班活動、縦割り班清掃、地域での行事で、ともに活動し、互いを思いやることが、自然と行われてきた。その結果A2「児童は、思いやりの心をもっている。」、A11「児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」では地域の評価が、昨年度よりも評価が10ポイント以上高くなり、児童・保護者の評価も95%を超えている。コロナ禍を経験し、学校という場面で、より他者との関わりを大切にする意識が醸成されたのではとも考えられる。
 - ICT機器、図書等の活用については、総合的な学習の時間などの調べ学習では、個人用パソコンと図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援しており、特に今年度は、個人用パソコンの利用機会も多く学習に活用している実感があるのではと思われる。それにより、A10「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」A25「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。」では、児童・保護者の評価が昨年度よりも向上している。また、A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」は、児童・保護者の評価が年々向上している様子が伺える。個人用パソコンや読本等の図書資料を用いた学習が定着してきているのではと考える。
- 小中一貫教育・地域学校園の取組については、完全に元通りとはいえないまでも、できる範囲での交流をおこなってきた。定期的な小中合同のあいさつ運動、中学生による運動会でのボランティア活動、さらには、図書館教育・食育の地域学校園での取り組みが児童にも浸透してきたように思う。その結果A21「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」の児童の肯定的回答割合が昨年度より20ポイント以上高くなっている。
- 今回、数値指標を下回った項目はなかった。特に、児童からの肯定的回答の割合はほぼすべての項目で前年度を上回る結

果となった。この2年間多くの面で我慢を強いられた子どもたちであったが、少しずつ以前の状況にもどりつつある状況と、その境遇にもめげず、前を向いてくれているところも感じ取られる。一方でA5「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」、A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では児童の肯定的回答の割合が前年度より増加しているものの、保護者の肯定的割合は減少している。児童への指導はしっかりとなされているのではと思われるが、それが実際の言動にあらわれていない部分もあるのではと思われる。また目標をもつこと、他者との関わりは、学校において重要な課題である。指導した内容がしっかり結果として現れるよう、教職員一丸となって、引き続き粘り強く指導していかなければと考える。同様にA22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。」では、児童の肯定的回答の割合が前年度より増加しているものの、地域の肯定的割合は減少している。今年度もコロナ禍の影響がまだあり、以前と同様な取り組みは不十分であったと思われる。できない前提ではなく、どうやったらできるかを考え、より効果的な学習に寄与できるように、工夫・改善をしていきたいと考える。

7 学校関係者評価

- ・地域の教育力を生かした特色ある教育活動や家庭・地域・企業等との連携・協力について、学校がどのように取り組んでいるのが分かりにくいので評価しにくい。行っていることについてお知らせして欲しい。
- ・地域との連携については、コロナ禍で諸行事ができないので仕方ないところでの回答か。
- ・地域と学校が連携した事業は行われているが、自分が関わっていない方は何をやっているかがわからないので、やっていることの発信をしていけば、良い評価につながるのではないか。
- ・今年度総合で3年生と関わった。お手紙ももらい、交流が深まった。昔遊びでも協力したい。
- ・学校がコロナ対策を考えながら活動を始めるときに、みんなでバックアップしていかなければいけない。マスクの件等についてもよく考えながら。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校経営】

- ・「宮小けやきプラン」を策定し、学習・学校行事・日常生活・家庭や地域との連携の場など、様々な場面で具体的な取組を推進し、「本気で学ぶ子・元気で遊ぶ子・正しく生きる子・喜んで働く子」の育成を目指す。
 - ・地域教育力の積極的な活用と人材発掘、地域行事との連携、積極的な情報発信と学校公開等を通して家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図る。実施方法を工夫して、今後も学校ボランティアや企業の方々を講師とした授業、地域の方々と一緒に活動する機会を設ける。
- 一条地域学校園（小中4校）の連携により、積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。

【学習指導】

- ・学習意欲の向上と主体的・対話的で深い学びを目指し、興味・関心を高め、主体的に学習に取り組もうとする課題提示と教材を工夫したり、対話的な活動から学びが生まれる実感を味わうことができる学習活動を工夫する。
- ・場に応じた話し方や聞き方について、学年に応じた指導を具体的に行っていく。
- ・思考力・判断力・表現力の育成を図るため、学習場面における一人一台端末を効果的に活用する。
- ・次年度も継続して、ICTの活用や授業研究会を行うことで、個々の授業改善や子どもの見方について、教師自らが学び、授業力向上を図る。

【児童指導】

- ・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、教職員の共通理解を図りながら家庭や地域と連携し、指導の充実を図っていく。児童会が中心となって、発信を行ってさらに児童の意識の向上を図っていく。
- ・よりよい人間関係を育ていけるよう、日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりする場面を増やしていく。
- ・家庭や地域と連携しながらあいさつ運動の実施を継続し、「みやのはらあいさつの日」の周知を図っていく。
- ・思いやりの心を育む教育の充実を目指し、オープンスクールにて道徳科を公開するなど道徳教育の充実を図る。
- ・目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組めるようにするために、定期的に目標を確認したり、振り返ったりする機会を設けたりして、継続して努力できるように励ましていく。
- ・英語を使っのコミュニケーションの向上を図るため、授業以外の場面でも積極的に英語に触れる機会を設けるようにする。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 体力づくりを推進するため、地域学校園共通の各種学習カードを活用した運動意欲の向上を目指す。
- ・生活習慣チェックを活用し、望ましい生活習慣の指導と家庭との連携を図る。
- 地域学校園によるマナー月間の設定、お弁当の日等の共通実施を行う。
- ・地域と合同の防災訓練を実施する。